

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	・普段の授業では、中だるみしないように内容を切り替えながら行っている。導入としては漢字の問題を行って、気持ちを国語に向けさせ、そのあとに教科書の内容に入る。そして、最後のまとめとしてワークや問題に取り組ませている。50分間集中力を途切れさせないことが課題と思われる。	・ともすると黒板中心の授業となりがちであるが、副教材をうまく利用しながら挿絵や資料で生徒のイメージを高めながら本文の中に引き込んでいきたいと考える。図なども積極的に取り入れることで生徒の理解を深めたい。	・机間巡視の際には、ノートの取り方や大切な部分への線引き、ひいては文字の整え方などにも注意を促すように心掛ける。
2年	・普段の授業では、プリントの穴埋めはすらすらとできるが、自分で考えて書いたり、根拠を文章中から探したりすることは苦手である。その点が、A「書く」項目やB「読み取る力」の結果に表れていると考えられる。 ・「関心・意欲・態度」も他教科と比べて低い。何のためにこの文章を読んでいるかわからないという生徒や、授業がつまらないという生徒が数人いる。	・自分の考えを書く活動を増やしていく。その際には本文中から根拠となる点を探したり、キーセンテンスや具体例、心情等が分かるところに積極的に線を引くように指導していく。 ・教材に対して興味や関心をもてるような導入をする。導入ではどんな意見も聞き、自分なりの課題や疑問を自然にもてるよう促していく。	・机間指導の際に手が止まっている生徒に対してヒントカードやアドバイスを提示していく。 ・グループワークを取り入れ、自分の考えを明確化する。また、自分ではわからなかった部分を学び合いによって補えるようにする。
3年	・時間数が大変少ないので、授業のスピードが速く宿題に任せることが多い。 ・「話す」活動をグループ学習として取り入れているが、話す声の大きさや、ルールなど、話すことに関して高い目標を定めさせたい。	・宿題の点検や理解度の確認が必要である。 ・グループ学習を入れる中で全員が話す機会を必ずもち、相互評価をさせる機会を入れる。	・課題に取り組む時には目標を複数もって各自が選択できるように配慮している。基礎的な目標を設定した生徒には個別に声をかけていく。 ・演習問題への取り組みは時間差が生まれるので、別の課題に取り組ませる。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	・生徒が活動する時間を確保することで内容に関する興味を引き付けるように配慮して指導を行っている。指導方法だけでなく、扱う内容によっても生徒の関心や参加度も変わるので、関連知識などに触れていくことで50分を通して参加度が高い状態を維持することが必要である。 ・暗記することに苦手意識をもっている生徒や自身の考えを表現することが苦手な生徒も多く見受けられる。	・積極的な授業参加のために、歴史では事象を淡々とつなげていくのではなく、時代間の比較や視覚資料をより多く用いた授業に取り組む。地理分野では、ゲーム感覚で取り組む導入を工夫した授業と知識を定着させる授業、取得した知識を活用する授業など「めあて」を明確にした飽きない授業を提案していく。 ・グループワークを「ルールの順守」や「活動の多様化」などの観点から改善していくことで、考える力や表現する力を高めていく。	・全体での作業時間には、質問のない生徒にも言葉かけを積極的に行い、個人に合った追加課題や支援を行っていく。 ・個人で考えを深める際に「ヒントカード」を必要な生徒に配ることで、参加意欲を下げないように配慮していく。 ・グループワークの中で、互いに教え合う「学び合い」の構造を作り上げるように意識して指導を行っていく。
2年	・課題設定へのきっかけが不十分で、興味・関心や解決に対する意欲をもって課題へ取り組むことができていない。 ・資料の読み解きや課題への取り組み方などにおいて、資料を見る視点や解決のポイントなどが全体に定着していないことが読み解く力の伸び悩みに繋がっていると考えられる。 ・ある情報から資料を作ったり使ったりする活動が不足しており、技能の能力に影響があると考えられる。	・発問や資料の提示の仕方を工夫し、目的意識をもって課題に取り組めるようにしていく。 ・資料選定を吟味し、推移・変化、比較、類推・予測、仮説・検証などいくつかのパターンの課題を設定し、それぞれで捉える視点や取り組む方法を繰り返し行なって定着を促す。 ・情報を集めて資料を作って説明したり、課題を解決するために有効な資料を探し出したりすることで技能を高めていく。	・机間指導を入念に行い、状況に応じて考える視点や既習内容を想起させる発問を行って、課題解決への道しるべを提示する。 ・グループワークでは役割をこちらで用意し、個々の生徒が目標をもって活動できるようにする。 ・レベル別の課題を設定し、能力に応じて取り組めるようにしていく。
3年	・生徒が自ら課題を見つけ自ら取り組む学習にならず、講義形式の授業が多くなってしまっている。 ・生徒の発言も少なく、集中できる授業になっていない。	・グループワークでこれから取り組む課題を見つけられるような学習を取り入れる。 ・生徒が発言しやすい発問や、考えて発言したくなる課題を設けるように心がける。	・写真の比較や絵の比較などから、変わった点を発見させるなど、個々の生徒が取り組み易く、発言しやすい課題を設ける。 ・机間指導ではきちんと一人一人を見てアドバイスをする。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1 年	・生徒が活動する時間を設け、ほとんどの生徒が意欲的に活動している。計算問題に対して理解は高く、積極的に取り組むことができています。しかし、式の利用や文章理解になると、理解度は下がる。文章の意味を理解したり、それを言葉で表現することを苦手としている生徒が多いと考えられる。	・全体場で、言葉で説明する時間は設けているが、それだけでは発表できる生徒に限られてしまう。生徒が主となり活動する場面では、ただ活動するだけではなく、グループ活動などの少人数での考えを発表し合う機会を作り、より多くの生徒に考えを言葉で表現する場を作る。 ・表現する機会を増やし、言語活動を重視していく。	・授業内の指導だけでは、理解ができていない生徒がいる。演習の時間では個別に対応しているが、時間が足りなくなってしまうので、放課後の支援を適宜行い、個別指導を充実させていきたい。
2 年	・ほとんどの生徒が授業に対してまじめに取り組んでいる。計算問題には意欲的に取り組み、繰り返し練習することで定着も図れているが、自分で考え、表現するという点に対しては積極的ではない。それが、思考力・判断力・表現力の低さに表れている。問題を明確にさせた上で、自分で考え文章で表現することを取り入れている。	・発問を工夫し、毎時間生徒にしっかり考えさせる箇所をつくる。また、自分の考えを自分の言葉で表現したり、人の考えを聴くことや話し合う場面も設定していく。 ・分かりやすい説明や例の提示を心掛け、繰り返し指導することで応用力の伸長を促す。 ・文章を読み取る力を養っていく。	・机間指導で理解の不十分な生徒や意欲の低い生徒に声かけを行う。 ・グループワークで互いに教え合ったり、話し合いを行うことで理解度の高い生徒はより理解を深め、そうでない生徒も理解しようという意欲をもたせる。
3 年	3年生になり、受験を意識し、全員が正解までたどりつけるように、根気強くがんばっている。授業中は理解できているようだが、家庭学習の足りなさから、時間の経過とともに忘れてしまったり、計算のスピードが上がらない生徒も多い。復習をすと思い出したり、お互いに教え合ったりして、一人一人が自分の力を上げようとはしている。今後も、楽しい授業を意識しながら、入試レベルの問題にも取り組ませていきたい。	・実験やゲーム、話し合い活動を取り入れ、生徒のやる気を起こさせるような楽しく引きつける授業をする。 ・数学ソフトを使用して、脳のトレーニング問題や入試問題などを用意する。 ・多くの教科書・問題集を参考に教材研究・開発に時間をかけ、指導内容を充実させる。	・授業中、生徒どうしで大いに教えあい、お互いの力をつけていく。 ・毎時間の確認テストで個人の理解度を確認し、机間指導でアドバイスをする。 ・補習や質問タイム、再テストなどで個々の分からないところを消化していく。 ・入試の過去問題(標準～発展問題)プリントを用意し、数学を得意とする生徒にも、より力をつけさせる。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	多くの生徒が授業に対して落ち着いた授業態度で取り組んでいる。基礎的な知識や理解力は概ね身に付いている生徒が多いものの、授業中の発問に対して積極的に発言をする生徒は限られている。また、授業に集中できていない生徒も少数いる。全ての生徒が集中して授業に取り組む、より多くの生徒が積極的に発言できるような授業づくり、そのための指導が課題である。また、実験には皆積極的に取り組むものの、結果のまとめや考察、特に考察した内容を表現することを苦手とする生徒が多い。班での話し合いをとり入れるなどしながら考察を深め、それを表現する力の向上も期待しているものの、その取り組み方の検討や指導方法の改善が課題であると考ええる。	授業に集中することについては、目的意識をもって取り組めるように本時のねらいを明示するとともに、演示実験を行うなどして、生徒の興味・関心を高められるようにする。また、適宜机間巡視をしながら声をかけたり、発問するなどして適度な緊張感をもたせる。一方、積極的な発言を促すために、全体に問いかけたり個別に指名するなど発問方法を使い分けながら、発言しやすい雰囲気づくりや、発言に対して適切に評価することで生徒の自信や次の発言につなげられるようにする。考察やその表現については、個々の考えをまとめさせたりうで、話し合いの場面でお互いの考えを述べさせるようにする。友達との考えの相違を確かめることを通じて考察を深めるとともに、他者の表現方法を参考にしながら自己の考えを表現する力を向上させるようにしていく。	授業においては、適宜机間巡視する中で丁寧に指導していくとともに、発問内容を考慮しながら指名したり、ヒントを与えるなどして自信をもって発言できるようにする。また、安心して発言できるような雰囲気やルールを徹底する。基礎的な内容の理解のために演習を行う中での指導とともに、放課後や長期休業期間も利用しながら個別の指導の充実を図る。
2年	東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果によると、正答率は都の平均を大きく上回っており、大変良い結果であるといえる。観点別に見ても、読み解く力については、取り出す力、読み取る力はあるが、解決する力が少し低くなっている。全体としては良い結果といえるが、正答率が高い生徒が数多くいるが、中には非常に正答率が低い生徒もいる。この生徒のフォローが課題である。	読み解く力のうち、解決する力が弱いので、日ごとの授業の中で、問題を把握させた後、実験結果などから情報を正確に読み取り、そこから考察を重ねて各自で自分なりの結果を導き出せるように考える時間を十分に取る。また、なかなか、自分で考えることが苦手な生徒に対しては、ヒントになるようなアドバイスを与えたり、既習事項を思い出させたりする中で、どこに着目すればよいのかを探る手助けをしながらも、考えさせて自分なりに文章や言葉で表現させることを繰り返しさせるようにする。また、学習内容の理解度が低い生徒に対しては、机間巡視の際、意識して個人的に声をかけたり、テスト前や長期休業のときは学習教室で基本的なことを復習するなどの対策をとる。	左記のように机間巡視や学習教室のほか、実験、観察などは3～4人の班で行うことが多いが、だれかできる子に任せるとでなく、一人一人が取り組めるように一人、二人で取り組む実験を取り入れたり、パフォーマンステストなどを行うことによって、みんなが取り組まなければいけない雰囲気を作り、一人一人全員が意欲をもって実験できるよう工夫する。
3年	定期テストでは、作成時想定した平均点より上回った。生徒が学校で購入した問題集で家庭学習をよくするようになっている。授業でも、プリントにしっかり記入し、各自工夫してできるようにになっている。しかし、実験についての考察は上位の生徒はできるようになってきたが、まだできていない生徒も多い。	実験については、目的を確認し、予想を立てさせた上でやっている。各班が実験を終了したところに、もう一度目的を確認し、考察のポイントを伝えたりうで考察するように促しているが、考えようとせずに他の生徒の考察をあてにしている生徒もいる。そのような生徒に対しては班での話し合いは認めているので、自分で消化して自分の言葉で表現できるようにすることから始めたい。	左記のように、考察を自分で出来ない生徒に対しては、机間巡視で特に、丁寧に、考察を促すようなヒントを与えて考えを導くことも行う。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	実技(多くの場合は合唱)を通して、その場で演奏すること、つまり技術面に重点を置きがちであった。しかしそれでは多くの生徒にとって、生涯学習の視点での力はつきにくい。また一面からみた音楽の力ばかりに注目しがちである。 今年度は基礎的な実技の技術の習得を通し、徐々に聴く力を育てていく。また幅広い視点から音楽をより楽しみ力を伸ばせるようにしていくため、音楽を形づくる要素にも目を向けさせたい。	前半は基礎的な技術習得と音楽を楽しむことを目的に、聴く力を育てながら合唱コンクールに向けた取り組みを中心に授業を行う。 基本的な項目の具体例は、以下の通り。 ・歌詞を理解し表現することができる。 ・混声合唱の響きを味わうことができる。 ・音符・休符・記号・拍を理解し、表現することができる。 ・明瞭な発音(子音・鼻濁音など)に気をつけ歌唱できる。 ・正しい姿勢、発声の基礎を身に着けることができる。 ・他の声部を意識しながら歌唱することができる。etc. 後半は、筆の学習と創作の学習を通し、音楽を形づくる要素にも目を向けさせる。それらを踏まえ、卒業式で合唱する「大地讃頌」にすべての学習を結びつけていきたい。	合唱に関しては集団指導になりがちだが、折に触れてさまざまな例を挙げて指導する。 発音・発声法・変声期の男子の事情やパート分けの手順については男子のみならず全員に説明し、それらを各自の歌唱技術に反映させる。そのことが、個人の力を伸ばすだけでなく、変声期の生徒や自分の声に自信を持っていない生徒は周囲からの理解を得られ、意欲をもつきっかけにもつながると考える。 後半は班ごとに筆の学習や創作の学習をする中で、教え合いや個人の発表や作ったものを通して、音楽を形づくる要素にも目を向けさせていく。
2年	実技(多くの場合は合唱)を通して、その場で演奏すること、つまり技術面に重点を置きがちであった。しかしそれでは多くの生徒にとって、生涯学習の視点での力はつきにくい。また一面からみた音楽の力ばかりに注目しがちである。 今年度は基礎的な実技の技術の習得を通し、徐々に聴く力を育てていく。また幅広い視点から音楽をより楽しみ力を伸ばせるようにしていくため、音楽を形づくる要素にも目を向けさせたい。	前半は基礎的な技術習得と音楽を楽しむことを目的に、聴く力を育てながら合唱コンクールに向けた取り組みを中心に授業を行う。 基本的な項目の具体例は、以下の通り。 ・歌詞を理解し表現することができる。 ・混声合唱の響きを味わうことができる。 ・音符・休符・記号・拍を理解し、表現することができる。 ・明瞭な発音(子音・鼻濁音など)に気をつけ歌唱できる。 ・正しい姿勢、発声の基礎を身に着けることができる。 ・他の声部を意識しながら歌唱することができる。etc. 後半は、筆の学習と創作の学習を通し、音楽を形づくる要素にも目を向けさせる。それらを踏まえ、卒業式で合唱する「大地讃頌」にすべての学習を結びつけていきたい。	合唱に関しては集団指導になりがちだが、折に触れてさまざまな例を挙げて指導する。 発音・発声法・変声期の男子の事情やパート分けの手順については男子のみならず全員に説明し、それらを各自の歌唱技術に反映させる。そのことが、個人の力を伸ばすだけでなく、変声期の生徒や自分の声に自信を持っていない生徒は周囲からの理解を得られ、意欲をもつきっかけにもつながると考える。 後半は班ごとに筆の学習や創作の学習をする中で、教え合いや個人の発表や作ったものを通して、音楽を形づくる要素にも目を向けさせていく。
3年	実技(多くの場合は合唱)を通して、その場で演奏すること、つまり技術面に重点を置きがちであった。しかしそれでは多くの生徒にとって、生涯学習の視点での力はつきにくい。また一面からみた音楽の力ばかりに注目しがちである。 今年度は基礎的な実技の技術の習得を通し、徐々に聴く力を育てていく。また幅広い視点から音楽をより楽しみ力を伸ばせるようにしていくため、音楽を形づくる要素にも目を向けさせたい。	前半は基礎的な技術習得と音楽を楽しむことを目的に、聴く力を育てながら合唱コンクールに向けた取り組みを中心に授業を行う。 基本的な項目の具体例は、以下の通り。 ・歌詞を理解し表現することができる。 ・混声合唱の響きを味わうことができる。 ・音符・休符・記号・拍を理解し、表現することができる。 ・明瞭な発音(子音・鼻濁音など)に気をつけ歌唱できる。 ・正しい姿勢、発声の基礎を身に着けることができる。 ・他の声部を意識しながら歌唱することができる。etc. 後半は、創作の学習を通し、音楽を形づくる要素にも目を向けさせる。それらを踏まえ、卒業式で合唱する卒業式の歌と「大地讃頌」にすべての学習を結びつけていきたい。	合唱に関しては集団指導になりがちだが、折に触れてさまざまな例を挙げて指導する。 発音・発声法について全員に説明し、それらを各自の歌唱技術に反映させる。 後半は班ごとに創作の学習をする中で、教え合いや個人の発表や作ったものを通して、音楽を形づくる要素にも目を向けさせていく。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1 年	・美術は、芸術教科でもあるが、身近な題材もあり、生活に密着していることを教えている。	・日常生活の中で見るポスターや服装の色など、学習内容とどのように繋がっているか、具体的に示している。	・机間巡視及びアイデアスケッチ等の提出により、個々にアドバイスをしている。
2 年	・見通しを持たせて制作させるようにしているが、授業外の時間を始めから宛てにして、計画的に進めない生徒がいる。	・授業時間内で制作する計画表をつくらせる。	・机間巡視及びアイデアスケッチ等の提出により、個々にアドバイスをしている。
3 年	・他教科で習ったことを知識とし、関連付けて説明し、知識の活用をさせているが、1年時に習ったことはおぼえていても、応用力に欠ける。	・作品への応用の仕方が、個々に異なるため、机間巡視など個別に対応する時間を確保する。	・机間巡視及びアイデアスケッチ等の提出により、個々にアドバイスをしている。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1 年	・ほとんどの生徒に対し得手・不得手にかかわらずどの種目に対しても、意欲的に取り組む姿勢をもたせることができる。	・体育を苦手としている生徒、理解力の低い生徒に対しての、学習資料や学習カード・ノートについて分かりやすい生徒の負担にならない資料精選を行う。	・学習カードへのアドバイスを記入、授業内での課題解決を行うための声かけ等を、個に応じた指導を充実する。
2 年	・授業のねらいと本時の流れを授業始めに提示をして生徒一人一人に授業の見通しをもたせ、それぞれの課題解決に向けて仲間同士の教え合いを中心に授業を展開させている。それにより、意欲的に取り組む生徒が多くなっている。	・各種目に適した資料の精選と授業ごと、1時間に組み込む技能のポイントの量を生徒の動きをみながら決めることが必要である。	・個人練習時には出来るだけ全員にアドバイスをしていくこと。課題がなんなのか考えさせ、その解決方法についてもアドバイスをしていく。
3 年	・授業のねらいと本時の流れを授業始めに提示をして生徒一人一人に授業の見通しをもたせ、それぞれの課題解決に向けて仲間同士の教え合いを中心に授業を展開させている。それにより、意欲的に取り組む生徒が多くなっている。	・各種目に適した資料の精選と、技能のポイントを、指導していく。仲間同士での教え合いを発展していく。	・体育が好きな生徒が多く、個人練習時には出来るだけ全員にアドバイスをしてモチベーションを維持できるように心がけている。そして、課題がなんなのか考えさせ、その解決方法についてもアドバイスをしていく。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1 年	・授業の始まりに本時の目標と流れを示し、授業の全体像をイメージさせる。 ・具体的な事例を通しての基礎・基本の理解の徹底を図る。	・具体的な例や生徒にとって身近な例を数多く提示し、理解を深める。 ・確実に技術や知識が定着するように繰り返しの指導を行う。	・自己評価を実施するなどして、解らないところは積極的に質問できる場を設ける。 ・作業の進度を毎時間チェックし、個別指導に生かす。
2 年	・多くの生徒に達成感をもたせるための評価を行う。 ・実際に家庭で生活する時に生かすことのできる力を育てる。	・目で見て、触ってといった、人間の感覚を用いる授業を行い、興味関心を高める。 ・授業での具体的な実習や家庭での実習等を通して、繰り返し指導し、実践力を養う。	・自己評価を実施するなどして、わからないところは積極的に質問できる場を設ける。 ・レポート作成の個別指導とその評価をその都度行う。
3 年	・主体的に学習し、理解、実践する力を育てる。 ・多くの生徒に達成感をもたせるための評価を行う。	・主体的に学習ができる場面を増やす。ワークシートの活用、小集団での話し合いの設定、互いの機能を評価し合う場の工夫を行うことにより授業内容の充実を図る。	・個に応じた適切なアドバイスをしながら、評価を行う。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	-C 衣生活の自立- 製作実習の基礎「基礎縫い弁当袋」では、技能において、個人差が大きく、苦戦している生徒や、遅れてしまい焦っている生徒がいた。そのことが原因で家庭科に対する苦手意識がある。	・授業中は、一斉指導が中心で、個別の指導が難しいが、進捗チェックをし、遅れている生徒の作品で、やり方の説明をし、遅れを取り戻させる工夫をし、「人より遅れている」という劣等感を感じさせないようにしたい。 ・家庭科は、生活と結びついている教科なので、学んだことや身に付けた技術を家庭生活の中で生かす場面の課題をあたえる。	・授業中は、一斉指導が中心で、個別の指導ができない。放課後の補習を通して、個の技能に応じた丁寧な指導をしていく。 ・苦手意識を取り除くには、何より作品を完成させ、提出することであると考える。授業内でできなかった生徒については、放課後の補習をして、完成を目指す。
2年	-C衣生活の自立- 衣服の着用「ゆかたの着装」では自装ではなく、つまずきの少ない他装にしたが、全員が美しい着付けをすることができなかった。	・教師の技術力の向上に努める。 ・グループ学習を通して、互いを高めていく。 ・家庭科は、生活と結びついている教科なので、学んだことや身に付けた技術を家庭生活の中で生かす場面の課題をあたえる。	・着付けが覚えられない生徒については、放課後補習をして、自信を持たせてから、実技テストに臨ませる。
3年	-D身近な消費生活と環境- における学習では、知識の習得のみに終わり、「自分ならどうする」といった問題解決的な学習ができなかった。	・「あなたならどうする？」まわりの生徒同士で話し合いをもたせる。 ・自分らしい暮らしを考えさせる。	・ 契約解除の手紙を個別に書くことにより、家庭科の、思考力・判断力・表現力である工夫し創造する力を養う。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	個に応じた指導の充実
1年	聞く・話す・読む・書くの4領域のバランスを考えて授業を行い、ノート作り、単語学習などを家庭学習として課題にしている。定期テストでは、全体的によく得点できているし、単語テストにもよく取り組んでいる。スピーチやスキット発表などにも積極的に取り組んでいる。定期テストは書く領域が少し弱い。また、会話でスピーディーに対応することが苦手な生徒がいる。	スピーディーな会話の対応ができるようにペアワークだけでなく、教師との対話も積極的に取り入れていく。また、ノート作りはほとんどの生徒に身に付いたが、まだ、取り組めていない生徒がいるので全員が取り組めるように指導していく。また、文レベルの書く力が付くよう書く機会を増やしていく。	書く力の中で、自由英作文は、創造力の高い生徒には楽しく発展的に取り組み、苦手な生徒は単語の入れ替えによる文作りという形で取り組める。プリントにして紹介したり、スキットやスピーチという形で全体に紹介することにより、刺激を受けあいながら、個々の力をつけることに繋がるので、継続・発展させていきたい。
2年	東京都学力調査の結果では、東京都の平均点を大きく上回っている。またすべての観点において、東京都の平均を上回っている。その中でも、表現する能力の数値が低い。授業の中でも、自分の考えなど、自分のことを表現することに対して苦手意識をもっている生徒がいる。	アクティビティを多く取り入れ、表現をする機会を増やすとともに、ワークシートなどにおいても、自分のこと、自分の考えを表現する機会を増やしていく。	全体の前で発表する機会やALTと一対一で会話ができるインタビューテストやスピーチをする機会を各学期に一回ずつ作る。
3年	学力は都の平均を大きく上回っている。文法と英文を理解する指導を徹底したことは効果が出ていると思われる。これから必要なものは応用力と聞く・話す力である。リスニングさせる時間をさらに増やしていきたい。	リスニングの課題を授業の中で増やしていく。英語スピーチの時間を設け、評価に加えていく。リスニングは入試対策も含め、全体的な力をつけていき、スピーチではアイコンタクトの重要性も指導していく。	リーディング時に個別に発音指導していく。スピーチ終了時に、克服すべき課題を適宜指導していく。